

産業建設常任委員会行政視察

調査日

7月25日～27日

調査研究箇所

・岐阜県瑞穂市「株式会社岐阜バイオマスパワー」

・岐阜県郡上市「ジビエ工房めいほう」
・岐阜県郡上市「やすらぎの里いとしろ」

参加委員

多田 勉
照井 文雄
小松 正真
佐々木 敦緒
荒川 栄悦
新田 勝見

◆岐阜バイオマスパワー「木材の有効利用及び林業の活性化について」

本市において民間事業者が予定する「木質バイオマス発電事業の整備」これの収支の状況さらには山主に対しての恩恵、また雇用状況について視察した。初期投資が多額であること、安定した林地未利用材の確保が大きな課題である。今後



◆ジビエ工房めいほう「食肉処理施設整備の経緯、食肉処理及び販売状況について」

の事業推進にあたっては林業事業者との深い連携を構築していくことが重要であることを学んだ。

本市ばかりではなく全国的にイノシシやシカが増え、農作物への

被害が年々増加しこの対策が喫緊の課題となっていることから、駆除した鳥獣から経済活動をしたいくために、ジビエは必要なことではあると思うが、人材の育成と販路の確保を計画してから取り組むべきことを学んだ。

◆やすらぎの里いとしろ「小水力発電事業導入による地域活性化の取り組みについて」

本市でも近年民間投資事業として太陽光や風力での発電の事業化が顕著であるが、小水力発電は、水が豊富な本市では、中山間集落の維持に適した事業であり、様々な場所でも発電が可能であると考えられることから早期の計画を望みたい。

議会改革推進委員会行政視察

調査日

7月20日

所属委員

荒川 栄悦
萩野 幸弘
佐々木 敦緒
多田 勉
照井 文雄

◆通年議会を導入している北上市議会を調査

議会改革推進委員会は、より良い議会活動のため議員定数・議員報酬・政務活動費・政策提言について、調査協議してきた。その結果令和4年3月定例会において、次期市議会議員選挙から議員定数を1名減じて17人とする条例改正を行った。現在、遠野市議会として活動が出来るのは、会期中のみであり、また議会を招集できるのは市長のみであることから、議会活動に限界がある。そのため、※通年議

会を先行導入した北上市議会を視察した。通年議会導入により、常任委員会活動および議員活動が活発になったことの説明を受けた。また、導入に当たった市の当局との調整・交渉も大きなトラブルが無かったことも確認できた。



改選後の市議会において、更に議会改革を進め、議会力の向上を図り、市政課題解決に向けて活発に活動するため、更なる調査・研究が望まれる。

※通年議会とは
議会の活動可能な期間である「会期」について、これまでのように定例会・臨時会の区分を設けず通年（1年間）として、閉会期間をなくすことにより、議会の判断が必要に応じて本会議・委員会を開催できるようにするもの。

タブレット導入等検討特別委員会活動報告

令和元年12月に設置された「タブレット導入等検討特別委員会」では、計13回の委員会や、先進地視察、市当局との協議を重ね、令和3年6月「遠野市議会ICT推進基本計画」を策定し、その実現に向け活動を行った。その結果、オンラインによる委員会の開催が可能となる委員会条例と会議規則の改正及び、議会専用Wi-Fiと議員間の情報伝達を迅速に行う議員用グループウェアの運用を開始した。

本計画については、令和4年度までの計画期間であり、市では「遠野市DX推進アクションプラン」を策定する予定であることから、遠野市議会でもこれ



議員用グループウェアにより速やかに情報共有が図られるようになった

に対応した取り組みが想定される。よって、「市民に開かれた議会」のなご一層の実現と「持続的で豊かなまちづくりの実現」に寄与するため、次期遠野市議会における特別委員会の設置及び活動の是非について、柔軟かつ積極的に検討いただきたい。

市政調査会

調査日

令和4年7月15日

参加議員 17名

風力発電施設2か所について調査した。

1. 道の駅「遠野風の丘」風力発電施設の状況について

この施設は平成10年6月に供用開始され、当初は1枚羽根の風車であったが、平成22年に5枚羽根の機種に変更になった。その後、羽根が落下するなどの事故・故障があり平成26年4月から稼働停止している。

現在、風車は指定管理を受けている（株）遠野ふるさと商社が目視等により状況を確認している。今後、市は「風の丘」のモニタメントとして維持存続を図りながら、国補助金などの財源を探し、静穏化された風車が設置出来るよ

う取り組みたいのと。

2. 小友町で工事中の風力発電について

現在工事中である「住田遠野ウインドファーム」について、「合同会社グリーンパワー住田遠野」から説明を受け、調査した。

同社の風力発電は現在、日本全国3カ所で稼働しており、小友町での工事は2020年着工で風車は27基設置し、完工は2022年12月の予定。7月時点で、風車組立や連系鉄塔の組立作業中であ

つた。小友町の建設地付近は風況もよく、牧場として整備された土地であることから設置場所を選んだとのこと。工事が完成して、風車が稼働してからも、小友町山谷地区に事務所を構え、関連会社も含めて7名程度が勤務する

予定とのこと。「合同会社グリーンパワー住田遠野」では、「小友町はだか参り」など地域活動へ積極的に参加しているほか、発電施設の見学など子どもたちの環境教育への受け入れもしている。

再生可能エネルギーの将来性を信じて、地域の未来と一緒に考えて行きますと説明を受けた。



組立作業中の住田遠野ウインドファームの風車